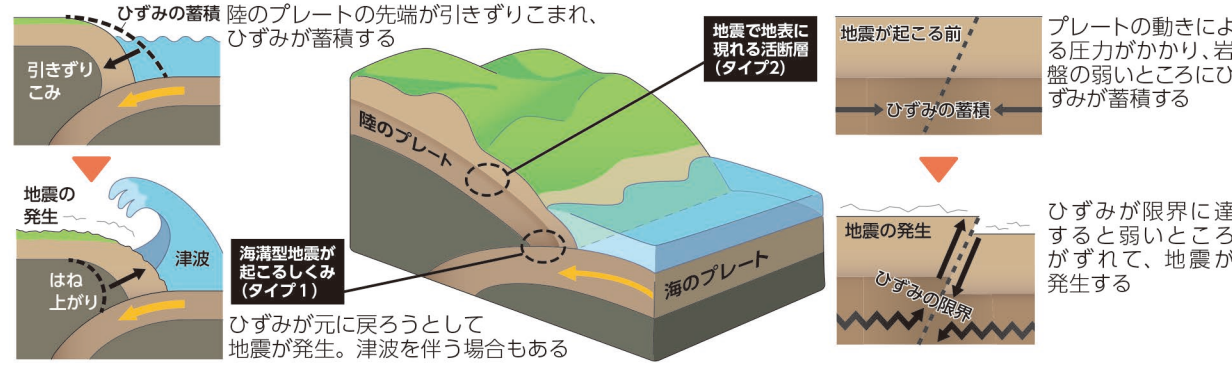


地震対策

発生のおきみ

地球の表面は、海や陸など十数枚に分かれたプレート（岩盤）で覆われています。海の下では新しいプレートが生まれ、年間数cmの速さで広がって陸のプレートに押し寄せます。海のプレートは陸のプレートより重いので、その下に入りこみます。この圧力によってプレートにひずみがたまり、それが限界に達すると、亀裂が入ったり大きく動いたりします。これが地震なのです。



地震によって想定される被害

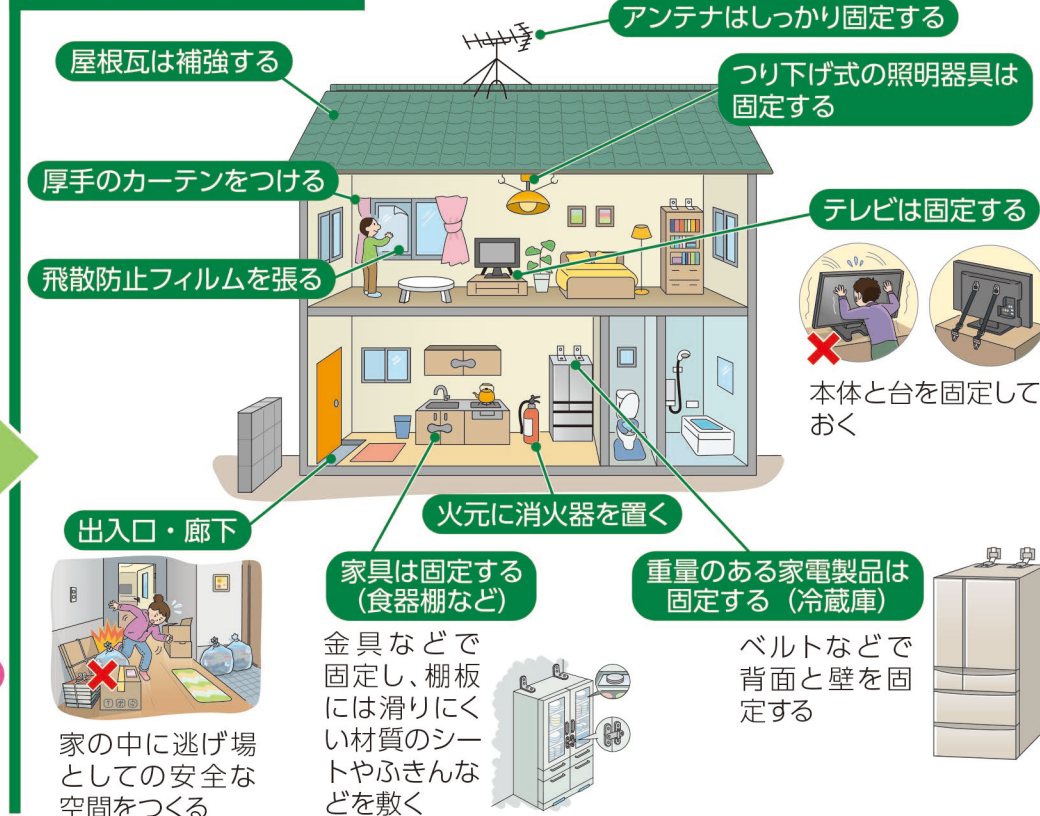
震度 4	○ほとんどの人が驚く ○電灯などのつり下げ物は大きく揺れる ○座りの悪い置物が、倒れることがある		震度 6弱	○立っていることが困難になる ○壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある ○耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある	
震度 5弱	○大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる ○棚にある食器類や本が落ちることがある ○固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある		震度 6強	○はわなないと動くことができない ○固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える ○耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える	
震度 5強	○物につかまらなさと歩くことが難しい ○棚にある食器類や本で落ちるものが増える ○補強されていないブロック塀が崩れることがある		震度 7	○耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある ○耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える	

わが家の安全対策

安全対策していないと...



安全対策しましょう！



火災対策

いのちを守る11のポイント

◆4つの習慣



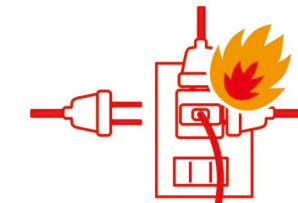
1 寝たばこは絶対にしない、させない



2 ストープの周りに燃えやすいものを置かない

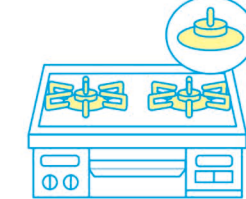


3 コンロを使うときは火のそばを離れない



4 コンセントはほこりを清掃し、不要なプラグは抜く

◆7つの対策



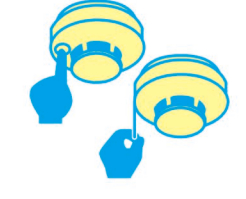
1 火災の発生を防ぐために、ストーブやコンロ等は安全装置のついた機器を使用する



2 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類およびカーテンは、防災品を使用する



3 高齢者や身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく



4 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する



5 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく



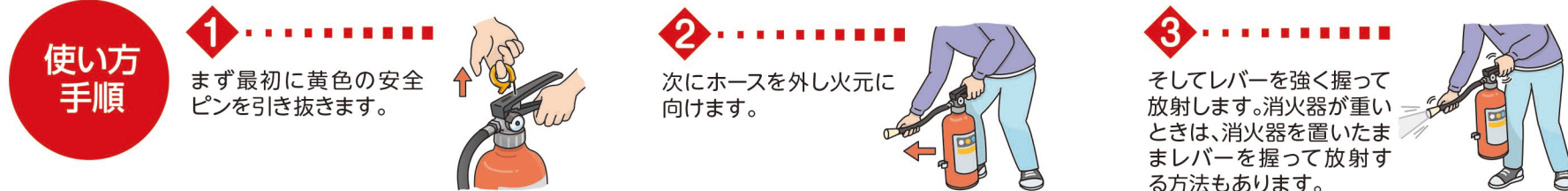
6 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域の防火対策を行う



7 一定規模以上の揺れを感知すると、ブレーカーを自動的に落として、電気火災を防ぐ感震ブレーカーを設置する

消火器の使い方

消火器は、火災の起きている場所の近くまでは片手または両手で搬送し、消火に安全な場所、概ね7、8mまで近づきます。そこで操作をしないと運んでいる間に誤射し、火災現場に到着したときには、放射し終わってしまうこともあります。消火器が重く、片手で運べない人は、両手で抱えるように搬送し、障害物にぶつけないよう気をつけて運びます。



放射の際は、火の根元をねらって、手前からほうきで掃くように消火剤を放射して下さい。消火剤を効果的に放射するため、また、自分の身を守るために消火器は風上から放射します。室内においては、逃げ道を確保し、出入り口を背に放射します。放射時間や放射距離は、本体に必ず表示してありますので確認してください。



住宅用火災警報器の設置義務化

家庭内での火災の発生をいち早くキャッチし、知らせてくれるのが、住宅用火災警報器です。住宅用火災警報器は、火災により発生する煙を感知し、音や音声により警報を発して火災の発生を知らせてくれる機器です。通常は、感知部と警報部が一つの機器の内部に包含されていますので、機器本体を天井や壁に設置するだけで、機能を発揮します。

